

社会的排除の実態に関する調査 - 調査結果概要 -

2011年5月31日

株式会社野村総合研究所
コンサルティング事業本部
公共経営戦略コンサルティング部

〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビル

1. 調査の全体概要

本調査は、既存文献をサーベイすることで、生活リスクを「移行過程」に着目して定量・定性的に把握して次年度以降の実態調査における課題の整理を目的としている。

■ 調査目的

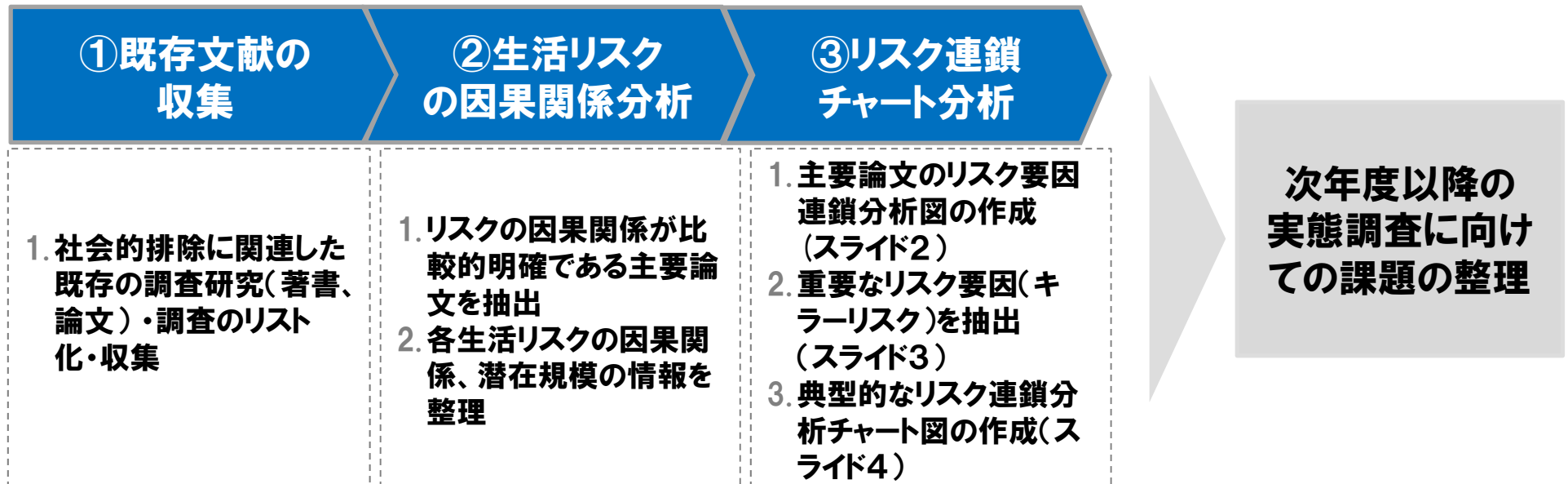
- 社会的排除に関連する既存の調査研究・アンケート調査の範囲で、社会的排除状態にある方が抱える生活リスクを「移行過程」に着目して定量・定性的に把握し、次年度以降の実態調査に向けての課題を整理する。

■ 調査対象

- 社会的排除に関連する既存の調査研究(241論文)
- 社会的排除に関連するアンケート調査(58調査)

■ 調査ステップ

図表1 本調査のステップ

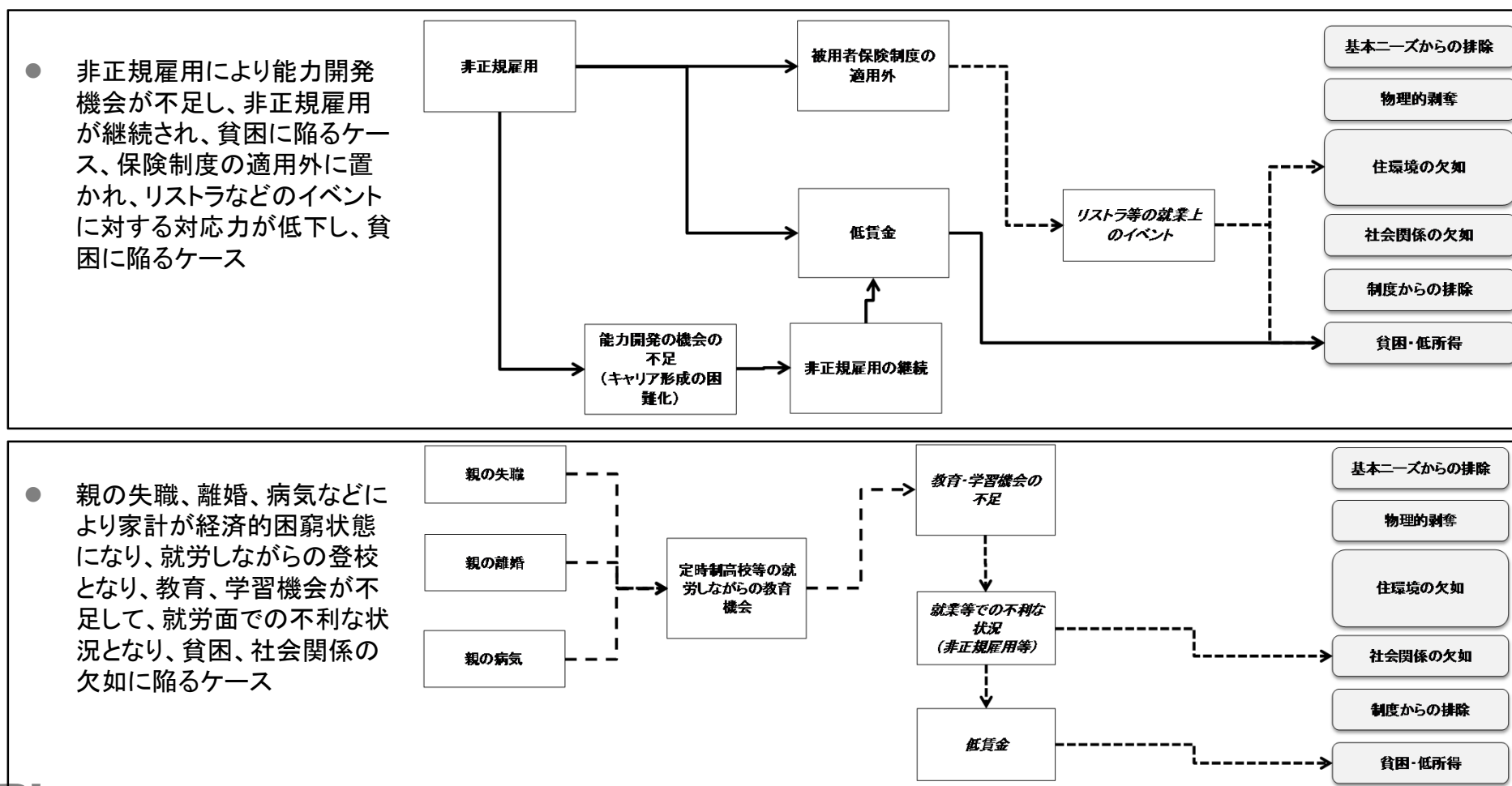


2. 調査結果 (1) 主要論文のリスク要因連鎖分析(調査③-1) 作成例①

社会的排除指標(結果指標)に対して様々なリスク要因がどのような移行を経て結び付くのかを可視化。

- 「新たな経済社会の潮流の中で生活困難を抱える男女に関する監視・影響調査報告書」からの例。

図表2 リスク要因連鎖分析チャート図 作成例



2. 調査結果 (2)キラーリスクの抽出(調査③-2)

参照論文分析により、当該リスクを抱えることにより、社会的排除の状態に陥りやすくなるリスク(キラーリスク)を整理。

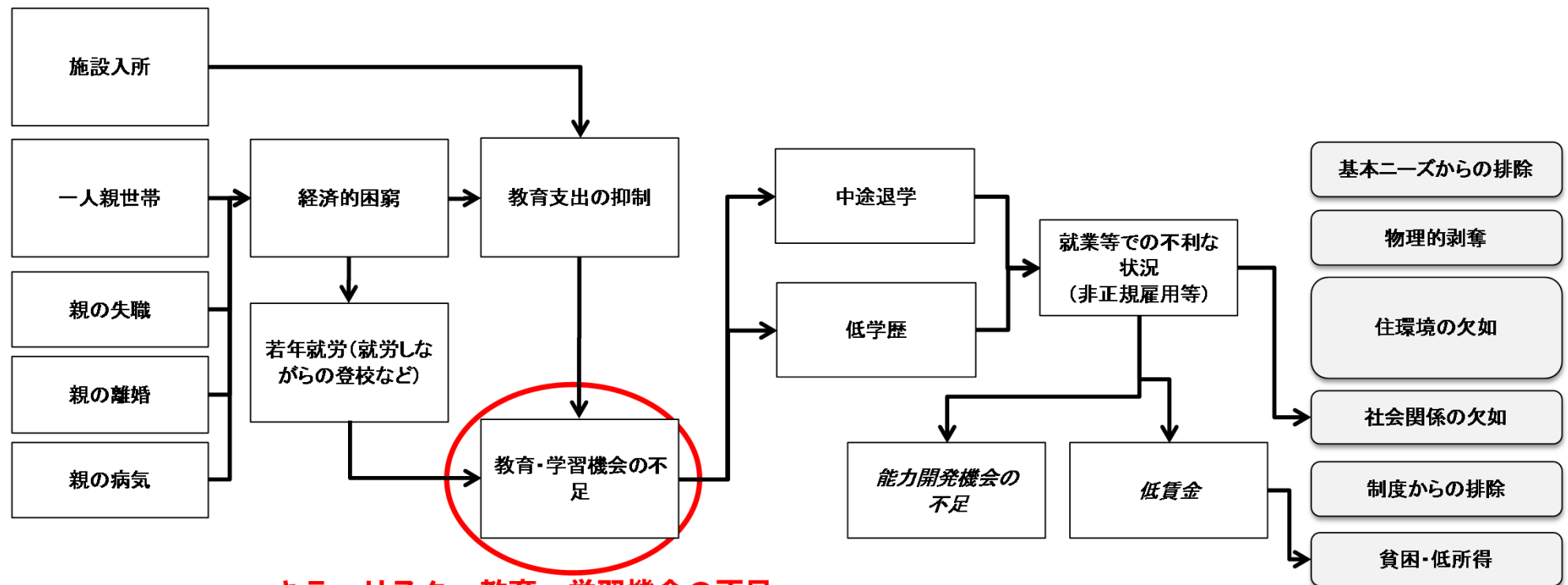
分類/ライフステージ	～学齢期	青年期・中年期	高齢期
本人の状態	教育・学習機会の不足	非正規就労	低い交流頻度
	不登校	多重就労	下肢の痛みなどの自覚症状
	ひきこもり	多重債務	—
	低学歴	単身世帯	—
	家族不和	住み込み就労	—
	大人不信	行政不信	—
本人のショックイベント	いじめ経験	失業	—
	10代での出産	病気	—
	児童虐待	就労中断	—
	中退	死別/離別	—
	性暴力被害	服役	—
	—	暴力(DV)	—
環境条件	子ども期の貧困	—	子の失業、離別、死別
	養育者のメンタルヘルス上の問題	—	—
	養育者の知的障害	—	—

2. 調査結果 (3) 典型的なリスク連鎖分析チャート図(調査③-3)

リスク連鎖を整理し、それらを俯瞰して見た上でどのようなリスク連鎖が起こりうる可能性があるのか、典型的なパターンを整理。

- 「教育・学習機会の不足」および「低学歴」は、非正規雇用などの不安定な就労につながりやすく、不安定な就労は、能力開発機会の不足や低収入につながり、結果として貧困状態からの脱却が難しくなる。また、不安定な就労は、社会とのつながりも弱く、社会や地域との接点の不足などから社会関係の欠如につながることも指摘される。

図表3 典型的なパターンの例(教育・学習機会の不足から社会的排除状態に至ってしまうリスク連鎖分析チャート図)



※ 不安定な就労にさらにリスク(日雇労働、労働災害、倒産・解雇など)が連鎖して、「基本ニーズからの排除」、「物理的剥奪」、「住環境の欠如」、「制度からの排除」につながることも指摘

3. 今後の課題

次年度以降の実態調査における課題として以下の3点があげられる。

本調査での限界

①社会的指標の結果指標の設定

- 論文によって、社会的排除の結果指標が異なっている。そのため、結果指標として分析されているものもあれば、中間指標として分析されているものもあるなど、指標にばらつきがある。

②移行過程の詳細把握

- 聞き取り調査の規模が小さいために移行過程の分析に限りがある。
- 長期にわたって、多数の個人を定点調査していないため、定量分析にて移行過程を明確にするのが難しい。

③潜在的にリスク要因を抱えた者の規模の推定

- 母集団となる数値は定量的にはある程度のレベル把握可能だが、その中でどの程度の割合でリスクを抱えやすいかは不明なものが多い。

対応方策案

- 社会的排除の結果指標のさらなる分析と定義付けを試みる

- 一定規模の移行過程分析可能なデータの収集。
- パネルデータを活用した移行過程の分析。

- 大規模な調査による社会的排除にいたるリスクを抱えるものの潜在的な規模の把握。